

多摩川再生

多摩川は、1957年に奥多摩湖と呼ばれるおこうち小河内ダムが完成し、観光施設も整い、レクリエーション地域として都民の憩いの場を提供してきた。しかし中・下流部の沿岸は東京都、神奈川県ともに住宅地や工業用地として都市化され、1965～75年頃の高度経済成長期に水質悪化や高水敷利用の多様化が進み、沿川の住民たちの間からも秩序ある空間利用計画を必要とする声がしだいに高まっていった。近年下水道普及により水質が回復するとともに、生き物たちも帰ってきた。

◆ 再生のポイント

- “都市が滅ぼした川”の再生
- 多摩川の豊かな自然空間の活用による人と自然にやさしい環境の創出

◆ 多摩川概要

多摩川は、その源を山梨県塩山市のかさとりやま笠取山に発し、途中多くの支川を合わせながら、東京都の西部から南部を流下し東京都と神奈川県の県境を流れ、東京湾に注ぐ延長138km、流域面積1,240km²の一級河川である。

その流域は、首都圏の南西部にあって山梨県、東京都及び神奈川県の1都2県にまたがっている。流域面積の約1/3を占める中・下流の平野部は、首都圏の中でも都市化の進展が著しい地域であり、1965～75年頃の高度経済成長期に水質の悪化が進行した。

近年下水道普及により水質が回復するとともに、“都市が滅ぼした川”に生き物たちが姿を見せるようになった。



◆ 再生のために実施した事業

【下水道整備】

東京都の流域下水道は、1968年から建設が始まったが、この流域下水道の建設によって多摩川流域の下水道整備が進み、また、工場排水の規制など他の関連する対策などが総合的に工効果を発揮し、汚れていた多摩川の水質も大幅に改善されてきている。

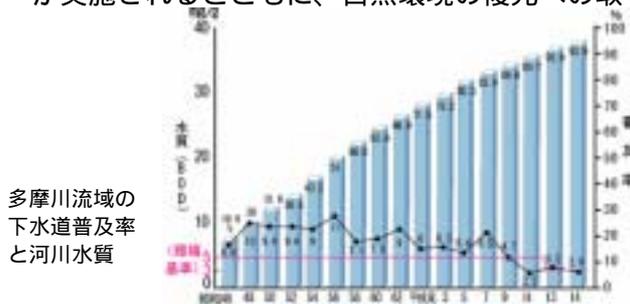
【東京湾の水質改善】

東京湾の水質改善や東京湾と行き来する稚魚(アユなど)の湾内での生育場(浅瀬)の造成により、多摩川と東京湾を行き来する魚類などの生育条件が満たされた。

以上のことから、高度経済成長期には多摩川から姿を消したアユも、1970年代後半から戻り始め、2002年の春は、110万尾以上のアユが遡上したと推計されている。

【河川空間の管理】

多摩川の空間管理は、自然の保全と利用の調整を行うために策定された「多摩川河川環境管理計画」(1981年)したが、自然の保全と利用が進められてきた。近年は、河川生態復元調査が実施されるとともに、自然環境の復元への取り組みがなされている。



多自然型川づくり